

サンプル株式会社 御中

「統合報告書 英語版」 英文品質診断結果

診断日: 2026年10月02日 / 診断対象: 公開済み英語版(993語を分析) / 発行: 株式会社トランスコネクト

英文の自然さ(直訳度)

2.2 / 5.0

明瞭性(読みやすさ)

2.5 / 5.0

投資家への情報伝達力

2.8 / 5.0

本書はAIによる簡易診断(自動生成)です。フル診断では当社の専門翻訳者・レビューアによる人手検証が加わります。

評価方法: 文の長さ・表現の使われ方などを数値化する定量分析と、当社評価基準表に基づくAI審査の二重評価。

ネイティブ水準との距離

SAMPLE — 本レポートは架空企業の文例による見本です



海外機関投資家が日常的に読む米国大手企業のネイティブ執筆文書を基準(5.0側)とした比較



参照群: 米国大手企業のネイティブ執筆文書3件、日本大手企業(GPIF「優れた統合報告書」選定・国際アワード受賞クラス)の英語版5件。当社参照コーパスは継続拡充中です

直訳調マーカー密度(1万語あたり)

211.5

ネイティブ平均 23.8 / ネイティブ平均の約8.9倍

平均文長(語)

19.1

ネイティブ平均 20.3

読みやすさ(Flesch)

36.9

ネイティブ平均 45.4

※ 直訳調スコア・マーカー密度は機械集計の参考指標です(文脈上適切な語も含めて数えます)。個別の表現の要否は、人の目での確認が必要です。

頻出する直訳調表現: enhance(3回)、initiatives(2回)、enhancement(2回)、contribute to(2回)、with regard to(2回)

改善のご提案 1/3

SAMPLE — 本レポートは架空企業の文例による見本です



改善ポイント: 直訳調 | 貴社の公開英文はすでに多くの情報を丁寧に伝えていらっしゃいます。そのうえで、海外機関投資家にさらに伝わりやすくするための書き換え例をご紹介します。

現行の英文(抜粋)

With regard to climate change, we conducted scenario analysis based on the TCFD recommendations and are working to enhance our information disclosure.

書き換え例

On climate change, we conducted scenario analysis in line with the TCFD recommendations, assessing our business under [シナリオ(例:1.5°C/4°C)] scenarios. The analysis identified [主要リスク・機会] as the most material to the Group, and we plan to disclose the estimated financial impact and our response measures in [開示媒体] by [期限] .

【提案】原文に情報を足す再構成案です(翻訳の修正案ではありません)。英文は原文に忠実です。ただし投資家の視点では、「シナリオ分析を実施した」「開示の充実に取り組んでいる」という記述だけでは、どのシナリオで何を分析し、どのリスク・機会が重要と判断され、いつ・どこで結果が開示されるのかが読み取れず、取り組みの実質が伝わりにくくなります。英語版ではこの文を、①前提シナリオ、②特定した主要リスク・機会、③財務影響と対応策の開示時期・媒体、の3点を明示する形に再構成することを提案します。パッセージ内に該当する具体情報がないため、書き換え例ではブレースホルダで示しています。実際の分析結果や開示計画を当てはめることで、GHG削減目標(FY2030までにFY2021比46%減)や再エネ切替による9.8%削減実績といった既存の具体的記述と並ぶ説得力を持たせることができます。

改善ポイント: 直訳調

現行の英文(抜粋)

We will improve profitability through cost management and digital technologies.

書き換え例

To offset the uncertainty in raw material prices and foreign exchange rates, we aim to raise operating income from 21,450 million yen in FY2025 to 〔目標値〕 by 〔期限〕, building on the price revisions implemented in the second half and driving further gains through disciplined cost management and the deployment of digital technologies.

【提案】原文に情報を足す再構成案です(翻訳の修正案ではありません)。英文は原文に忠実です。ただし「収益性を改善する」「コストマネジメント」「デジタル技術」という表現は、投資家が最も知りたい「どの指標を、どの水準まで、いつまでに」が示されていないため、方針表明にとどまって見えます。英語版では、直前で触れている原材料価格・為替の不確実性という課題と直結させ、パッセージ内に実在する営業利益21,450百万円(FY2025)を起点に目標値・期限を添える構成にすると、施策の具体性と経営のコミットメントが伝わりやすくなります。目標値と期限は原文に記載がないためプレースホルダとしており、開示可能な数値がある場合に差し替えることを想定しています。

改善ポイント: 直訳調

現行の英文(抜粋)

We consider this balance sheet sufficient to fund the investment program under the medium-term plan without additional borrowing.

書き換え例

With an equity ratio of 54.2% and net interest-bearing debt of 0.7 times EBITDA, we expect to fund the 〔投資総額〕 investment program under the medium-term plan through 〔期限〕 from operating cash flow and existing liquidity, without additional borrowing.

【提案】原文に情報を足す再構成案です(翻訳の修正案ではありません)。英文は原文に忠実です。現行文は「このバランスシートで中計の投資計画を追加借入なしで賄える」という結論のみを述べており、投資家が検証したい根拠(どの財務指標を根拠にしているか)、対象となる投資計画の規模、期間、資金源が示されていません。書き換え例では、直前の文にある自己資本比率54.2%とネット有利子負債/EBITDA 0.7倍を根拠として同じ文に引き込み、「何をもって十分と判断したか」を明示しました。また投資総額と期限はパッセージ内に数値がないためプレースホルダとし、原文(日本語)の該当箇所や中計資料に数値があれば差し込むことで、英語版での説得力と検証可能性が高まります。

次のステップのご提案

SAMPLE — 本レポートは架空企業の文例による見本です



1

フル診断

全文を対象に日本語原文との照合(誤訳・訳抜け・数値一致)まで実施。AIの分析結果を当社の専門翻訳者・レビューアが検証したうえでご報告します。

2

英文改訂(リライト)

診断で特定した課題箇所を、海外機関投資家に伝わる英文へ改訂します。

3

組版後チェック(AI+人手LSO)

統合報告書の最終組版PDFに対する言語チェック。AI一次チェックと人手検証の二段構えで、数値照合・訳抜け・図表内テキストまで確認します。

本診断について: 本診断は公開されている英語版のみを対象としたAIによる簡易診断であり、対象文書からサンプリングしたパッセージの自動評価(定量指標+当社基準表に基づくAI審査)に基づきます。日本語原文との照合および当社専門翻訳者・レビューアによる人手検証は本簡易診断には含まれず、フル診断にて提供します。書き換え例のうち角括弧〔 〕内はプレースホルダーであり、実数値は貴社にてご確認ください。スコアは当社参照コーパスとの相対評価です。本診断書の無断転載はご遠慮ください。